

JR貨物ニュース

2016年12月1日発行
382号

購読料1部500円(税別) 1日.15日発行

発行所 ㈱ジェイアール貨物・リサーチセンター 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目33番8号 サウスゲート新宿5階 TEL03-6856-4323・FAX03-6856-4324 発行・編集 斉藤 和男

特積み事業者3社で共同運行するJTL便 東京～九州間を大型コンテナで鉄道シフト



第一貨物東京支店で集荷するトナミ運輸の31ftコンテナ

ジャパン・トランス・ライン(株)

ジャパン・トランス・ライン(株)は、2012(平成24)年にトナミホールディングス(株)(富山県高岡市)、第一貨物(株)(山形県山形市)、久留米運送(株)(福岡県久留米市)の3社が設立した合併会社である。「運行の効率化による市場競争力の強化」「国内外への3PL業務支援機能の強化」を掲げ、東京～大阪間の幹線共同運行に、12台のトラック・12人のドライバーを用意してスタートした。昨年同社は、東京～九州で大型コンテナによる鉄道利用を開始。輸送が順調に推移したことから、今年8月、発拠点を増やし鉄道利用を拡大した。

3社で幹線と地域を網羅

ジャパン・トランス・ライン(株)は、事業会社のトナミ運輸(株)・第一貨物(株)・久留米運送(株)の共同運行業務を受託している。JTLは昨年11月、東京～九州間で31ftコンテナによる鉄道利用を開始した。鉄道利用運送事業許可を持つトナミ運輸が鉄道利用を提案し、窓口となっている。



榎山 謙長



坂田 社長

京浜TTから リードタイム短縮

従来トラックによる九州便は大阪で一旦荷を卸し、九州の各方面別にトラックを仕立てていた。JTLの業務・安全管理担当の榎山和也課長は「途中で積替え等ハンダリングが増えれば、品質への影響が懸念されま

す。鉄道コンテナは積替えがなく、ドライバーの拘束時間が長くなる長距離輸送にも有効。東京都大田区の京浜トラックターミナル(TT)発なら3社の荷物を集めやすいし、東京(外)にも近い」と鉄道シフトの決め手を挙げた。

企業文化や考え方が違うため、共同運行は課題も多い。坂田社長は「3社ともメリットがあるよう荷量や運行の分担・調整役として間に立つのがJTL。社長同士はもちろん、運行管理部門やシステム部門等定期的に会議を開き、情報を擦り合わせている」と話した。

きました。鉄道では福岡(外)到着後、久留米運送飯塚支店(福岡県)で同社輸送網に乗せ、九州7県へ3口目午前中に配達できます」と榎山課長は話す。

さらに今年8月、板橋TT(東京都)に3社が東京近郊で集荷した九州向け荷物についても、鉄道にシフトした。同じ列車で福岡(外)へ輸送し、久留米運送みらい九州支店(福岡県)へ持ち込み九州内輸送網に乗せる。空いたコンテナには九州内で集荷した東北向け貨物を積み、再び福岡(外)6・41発、東京(外)7・37着の3056列車に載せ鉄道輸送後、大宮市の拠点から第一貨物の輸送網により東北全域へ配達される。荷卸し後の空コンテナは板橋TTへ回送する流れだ。



2カ所積みのため第一貨物東京支店から板橋TTへ向かう

「特積み事業者は小口荷物の積み合わせです。幹線輸送に面展開をプラスしてどこへも運ばなければなりません。全国を1社で網羅するのは難しい。3社は本拠地が違いますから、共同輸送は互いの不得意分野を補

う。JTL便は、東京(外)発23・22、福岡(外)着翌16・10の7053列車を利用している。「大阪積替えによるタイムロスがなくなり、リードタイムを半日短縮で

月々金曜日、両TTからコンテナを仕立ててい

この取り組みは、今年度の(一社)日本物流団体連合会「モーターシフト取り組み優良事業者公表・表彰制度」でモーターシフト最優良事業者賞(大賞)を受賞している。

国際物流は40ftラックコンテナで

特許

発工場からエンドユーザーまで
バン、デバン一切不用
(国際規格と国内規格の互換性がきく唯一のシステム)



12フィートの鉄道コンテナが3個収まる
40フィートサイズの「ラックコンテナ」



全国通運株式会社

〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-9-10
茅場町ブロードスクエア6F
電話 03-6861-6524(代)
FAX 03-6861-6535
ホームページ <http://www.zentsu.co.jp/>